

## 二人の証人

アミール・ツアルファティ

- 二人の証人に関する教え -

YouTube: [『二人の証人』 byアミール・ツアルファティ](#)

皆さん、シャローム！アミール・ツアルファティです。今回はヨハネの黙示録の中の「二人の証人」について、ライブ講演です。皆さんに正直に言いますが、このテーマはずっと気になっていました。でも、ツアーやカンファレンスや教会で講演して、そこで録画する機会を待たずに、オンラインで、できるだけ早く話そうと思ったのは、それは、私がインターネットで次のような事を見ていた時でした。これを実際にお分かちしようと思いますが、私は1人の路傍伝道者を見ていました。ワシントン州シアトルの中心部に新しくできた自治区で、彼は、ただ「良き知らせ」を伝道していただけでしたが、彼は暴徒に襲撃され、首を絞められて、もし彼が、すぐにその場から離れていなかったら、文字どおり殺されていたでしょう。この暴徒は、市民への暴力に反対してデモを行い、抗議していた人たちです。そこで見たものは、とても興味深いものでした。伝道者は、闇の中を歩いていた人たちに、他でもなく良き知らせを伝道しただけなのです。しかし、そこで見られたのは、その場にいた全員が福音の真理に耐えられず、彼らは、そこに立って抗議しようともせず、彼らは、その権利を主張していましたが、そして、彼らは肉体的、暴力的に伝道者を襲ったのです。そこで私が至った結論は、もちろん、私たちは、その日から遠くない。その時、世界中が、どの場所でも、誰からであっても、福音に関して聞く事を拒絶し、そして世界は、誰でも福音を延べ伝える人を殺す事を喜び祝うようになるのです。そして世界はそれを誇り、福音を伝道する人物が死ぬと互いに贈り物を交わします。皆さんはこう言うでしょう。「アミールさん。何を言っているんですか。それは超現実的すぎです。」それなら皆さんにお伝えしますが、今夜の話題は、確実に、この筋書きについてです。これは起こるかどうかではなく、いつ起こるかという問題です。なぜなら、神は、その恵みによって、使徒ヨハネに示されました。私たちの世界で起きる、この未来の出来事について。こんな感じで始めたかったのです。全ての皆さんに理解して欲しいのです。神は、私たち全てに与えてくださったのです。神のみことばに対する知識。単に、それを読む事によって与えられます。しかし、神はまた、私たちが生きるこの時代の時と季節を理解する事をお望みです。神は、ご自分の子どもたちから、ご計画を隠す様な方ではありません。実際、神はイザヤ書46章9-10節でこうおっしゃっています。



**「遠い大昔のことを思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。わたしは後のことを初めから告げ、まだなされていないことを昔から告げ、『わたしの計画は成就し、わたしの望むことをすべて成し遂げる。』と言う。」(イザヤ46:9-10)**

神は終りの事を初めから告げておられ、神は預言者たちを通じて、私たち全てに、まだ成されていない事を現在でもなお、告げておられます。神はご自分の子どもたちに知って欲しいのです。神は、私たちに霊媒師や占い師の所に行きたくありません。神は、私たちにしなくて欲しくないのです。ある人はカード占いや手相を見たり、コーヒーカップの底を見たりしますが、神は、全てを、ご自分の御言葉の中で語っておられます。そして、神は、ご自分の子どもたちに、神のことばを知って欲しいのです。このために、私たち全てにとって、ヨハネの黙示録は特別な賜物なのです。なぜなら、いいですか。私たちは、度々こう考えがちです。「これ以上、悪くなりようがない。」パンデミック、暴力、福音への完全な無関心、私たちは、人々が正気を失っていると思います。私たちは火山の噴火や地震を目にし、竜巻、ハリケーンを見て、世界の指導者たちが正気を失っているのを見ています。本当に、戦争や戦争のうわさを目撃しています。そして私たちは、これ以上悪くなりようがないと思っています。そこで神が、私たち全てに語っておられるのです。頑張りなさい。もうすぐあなた方をここから連れ出します。なぜなら、今見ているものより遥かに悪くなってい

くから。そのために、ヨハネの黙示録は非常に重要で、だからこそ、私たち全てへの贈り物なのです。だから、ヨハネの黙示録1章3節には、こう書いてあるのです。

**「この預言のことはを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを守る者たちは、幸いである。時が近づいているからである。」(黙示録1:3)**

聖書は、基本的に、こう言っているのです。「ご覧なさい、この本にある事が起こります。それは、あなたの方が知っておくべき事です。」そして、特に私たちにとっては、ヨハネの黙示録の最初の3章までの事は、私たちが守る必要がある事なのです。神は諸教会に警告しておられます。そして、あとの章で、神は語っておられます。私たちが取り除かれた後に何が起こり、その世界は、どのような有様になるのか。そして、その世界に手を差し伸べるために、神は何をなさるのか。私たちが、ここにいない時でさえ。

さて、ここでちょっと早送りして、1章から今日、私たちが取り扱う11章に飛びましょう。なぜなら、11章はまだ起こっていません。突然、起こるのです。それはヨハネの黙示録の1章から始まり、世界の出来事を、誰が本当に担っているのかをカーテンの裏から、私たちに垣間見せます。それは、もちろんイエス・キリストです。そして2章と3章では、イエスがどのように教会を形作られ、アジアにある諸教会に秩序を整えるようにと告げておられます。ところで、それぞれ、これらの7つの教会は、現在、存在する諸教会へのメッセージでもあるのです。一部は宗教的で、聖霊すら持っていません。一部は、初めは良かったのですが、最後は悪くなりました。一部は、本当に真に信仰の厚い教会です。つまり、非常に多くの教会が2章と3章の教会に当てはまるのです。つまり、エペソにある教会、スミルナ、ペルガモン、ティアティラ、サルディス、フィラデルフィア、ラオディキア。これらが7つの教会です。そして一つ一つが、一つは愛から離れてしまい、もう一つは労苦と忍耐に固く立ち、ペルガモへは文化的な嘘の中で真理を守るように、ティアティラには倫理基準を見出すように、サルディスでは死んだ教会を回復させ、フィラデルフィアの教会については、主に対して忠実であったとし、イエスが吐き気をもよおした教会がラオディキアです。ですから、イエスは私たち全てに、それぞれおっしゃりたい事があって、7つの教会への手紙を通じて伝えておられます。

ヨハネの黙示録3章以降では、明らかに、教会の存在がありません。つまり、私たちは本当に、それまでです。4章以前は、教会について19回言及されていて、そして4章から大きな白い御座の裁きに関する20章まで、教会は1回も言及されないのです。普通なら思うでしょう。この期間、教会はどこでどんな運命をたどるのか。そして間違いなく、教会はこの世界にはおらず、地上から取り除かれています。まさにそのために、ヨハネが、どのように天に上げられたかが4章で描かれているのです。彼は引き上げられます。ラプトウロ（ラテン；raptro）、ハルパゾ（ギリシア；ἁρπαζω）です。ヨハネは天へと上げられ、昔あり、今あり、この後起こる事を学び、書き記しました。ヨハネは…、いいですか。ヨハネは、未来に送り込まれたスパイの様なものでした。将来何が起こるかを、私たち全てに報告する為に。現在、私たちに必要なのは、ヨハネの黙示録を読むだけです。そうすれば、この世界がどうなっていくのか正確に分かります。面白いのは、5章の、ヨハネが、獅子と子羊がいる場所に自分がある事に気づく場面で、ただ彼一人だけ（イエス・キリスト）、ユダ族から出た獅子、屠られた姿の子羊、彼だけが7つの封印を解き、地上を裁く権威を持っているのです。地に注がれる裁き。私たちは裁きに会うようには定められていません。私たちは、神の御怒りに会うようには定められていません。イエスの血が、私たちの心の門柱に塗られているので、裁きは私たちを過ぎ越すのです。ですから、裁きはやって来ます。

6章は災いの始まりで、神は巻物の7つの封印をひとつずつ解きながら裁かれます。それだけではなく、ヨハネは時系列的に書き記していません。多くの場合、ヨハネが何かを見たら、それを書き記し、数章後にそこに戻って、詳細を記しています。7章では、ヨハネは14万4千人のユダヤ人伝道者に言及し、彼らは人々に悔い改めを呼びかけます。そこで踏まえておいて頂きたいのは、その場面は大患難時代の後半です。そして、もちろんヨハネは自然災害について言及していますが、最初の4つのラッパが吹かれた時、神は、それらの災害をもたらされ、そして9章では人類の大虐殺が言及されますが、それは最後の3つのラッパが吹かれる時で、その際には、神は、基本的に自然は損なわれません。しかし、地上の神を信じない人々には、

とてつもない災厄<sup>さいやく</sup>をもたらされます。10章では、私たちにとって、ほろ苦い瞬間で、A) 人々には悔い改めの道があります。しかし神は、ほとんどの人々が悔い改めない、という事を存じておられます。それから、苦くて甘い瞬間で、ヨハネが小さな巻物を受け取って食べると、その巻物は口には蜜のように甘いのですが、腹は苦くなるのです。それは、いよいよ裁きが来るというしるしでした。そして、いよいよ11章に入ります。皆さん、最初の14節を読んでみましょう。

「それから、杖のような測り竿が私に与えられて、こう告げられた。『立って、神の神殿と祭壇と、そこで礼拝している人々を測りなさい。神殿の外の庭はそのままにしておきなさい。それを測ってはいけない。それは異邦人に与えられているからだ。彼らは、』

「彼らは、」です。覚えておいて下さいね。

「彼らは聖なる都を四十二か月の間、踏みにじることになる。わたしがそれを許すので、わたしの二人の証人は、荒布をまとして千二百六十日間、預言する。』彼らは、地を治める主の御前に立っている二本のオリーブの木、また二つの燭台である。もしだれかが彼らに害を加えようとするなら、彼らの口から火が出て、敵を焼き尽くす。もしだれかが彼らに害を加えようとするなら、必ずこのように殺される。この二人は、預言をしている期間、雨が降らないように、天を閉じる権威を持っている。また、水を血に変える権威、さらに、思うままに何度でも、あらゆる災害で地を打つ権威を持っている。二人が証言を終えると、」

覚えておいてください。「証言」です。

「底知れぬ所から上ってくる獣が、彼らと戦って勝ち、彼らを殺してしまう。彼らの死体は大きな都の大通りにさらされる。その都は、霊的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれ、そこで彼らの主も十字架にかけられたのである。もろもろの民族、部族、言語、国民に属する人々が、三日半の間、彼らの死体を眺めていて、その死体を墓に葬る事を許さない。地に住む者たちは、彼らのことで喜び祝って、互いに贈り物を交わす。この二人の預言者たちが、地に住む者たちを苦しめたからである。しかし、三日半の後、いのちの息が神から出て二人のうちに入り、彼らは自分たちの足で立った。見ていた者たちは大きな恐怖に襲われた。二人は、天から大きな声が『ここに上れ』と言うのを聞いた。そして、彼らは雲に包まれて天に上った。彼らの敵たちはそれを見た。そのとき、大きな地震が起こって、都の十分の一が倒れた。この地震のために七千人が死んだ。残った者たちは恐れを抱き、天の神に栄光を帰した。」 (黙示録11:1-13)

第二の災いが・・・、皆さん、今、聖書の中でも、信じがたい箇所を読みました。私が今読んだ事が分かりますか。私は今、とてつもない出来事の箇所を読みました。そこには、二人の人物が登場します。この聖句で「二人の証人」として知られる人たちです。聖書は、彼らの事を、こう描いています。「預言をしている」預言です。そしてまた、彼らがあかしする事について聖書は語っています。証言。この二人は、明らかに聖霊に動かされて語っています。なぜなら、聖霊に動かされた預言者だけが、本当に神が人々に知らせたい事を伝えられるからです。未来でもそうです。ペテロの手紙第二章20-21節にそう書かれています。・・・

ええと、皆さん、これは理解して欲しいのですが、ずっと長い間、この二人は誰なのか、という議論が行われてきました。恐らく、今、皆さんは、ネットを見ながら思っているでしょう。「アミールさんは、二人の証人を誰だと考えているか」お断りしておきますが、私の意見は、ここでは意味がありません。なぜなら、私たちは聖書を読まなければなりません。私たちは事実を考慮しておく必要があります。神は、私たちに、その名前を知らせない事を選ばれたのです。彼らが神の民である事が分かっています。彼らが神のことばを語る事が分かっています。彼らがイエスの証しを語る事が分かっています。彼らには、預言のことばが与えられています。彼らが特定の時、特定の場所に遣わされた、特定の人種である事が分かっています。神は、彼らをそこに遣わす事によって働かれる事を知っています。また、彼らが任命されている期間、彼らが、自分たちの身を守るのを、神が許される事が分かります。彼らが超自然的な力を持つ事が分かっています。彼らが獣、反キリストに打ち負かされる事さえ神が許される事を、私たちは知っています。彼らの死ですら終

わりではない事を、私たちは知っています。なぜなら、三日半の後、彼らは、よみがえりますから。そして、彼らは天に上ります。その時、あの都の全ての住民の目の前で。そして、大規模なリバイバルが、少なくとも、ある程度のリバイバルが、その結果として起こります。それで今夜、私たちは自問自答します。彼らは誰なんだろう？ここで思い出す必要があります。もし、神が私たちに望むなら…、私たち、私たちの話です。つまり、現在の2020年の信者たちに。もし、それが誰なのかを、私たちが正確に知る事を神がお望みなら、神は彼らの名前を書いておられたでしょう。皆、知っていたでしょう。私たちが誰かの名前を知っておく事を神がお望みの時は、神は私たちに、その名前をお知らせになるのです。多分、私は多分としか言いませんが、彼らの名前は重要ではないでしょう。なぜなら、彼らが現れるのは、どのみち彼らの事を気に留めない人々の前です。どのみち、彼らの言う事を聞きません。その時、彼らが誰なのか考えもしない人々です。つまり言いたいのは、彼らが誰であるか正確に分かる、と結論付ける事は出来ません。しかし、ここで敢えて二つの可能性を考えてみましょう。もちろん、沢山の学者が示唆するのは、エノクとエリヤか、モーセとエリヤです。エノクとエリヤは、単純に彼らが死ななかったからです。彼らは、一度も朽ちていません。創世記5章21-24節で、エノクの事が分かります。

**「エノクは65年生きて、メトシェラを生んだ。エノクはメトシェラを生んで後、300年、神とともに歩んだ。」**365年です。面白くないですか？一年分の日数のように。そして、見て下さい。「そして、息子、娘たちを生んだ。エノクの一生は365年であった。エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった。」(創世記5:21-24)

彼は神とともに歩み、ブンッ！彼はいなくなったのです。神が彼を取られたから。それがエノクです。そして、私たちはエリヤについて正確に知っています。後で、そこをお読みします。しかし多くの学者が彼らはエノクとエリヤではないと考える理由は、誰が死んでいないかは問題ではないからです。なぜなら、明らかにこの二人は最終的に死にます。ほとんどの学者は、実際にはモーセとエリヤだろうと信じています。それは、この二人について書かれている事によります。第一に、彼らが行う奇跡です。つまり、敵を火で滅ぼし、雨を降らなくし、水を血に変え、地を疫病で打つ。これらは、旧約聖書でモーセとエリヤによって下された裁きに似ています。ここで第2列王記1章10-12節を見たいと思います。ところで、その後も続きます。ご存じのように、イスラエルの王はエリヤに人々を遣わしました。その王はバアルを拝んだ王でもありました。それでも王はエリヤに人を遣わしたので、エリヤは、彼に遣わされた50人隊の長に答えて言いました。

**「『私が神の人であるなら、天から火が下って来て、あなたとあなたの部下五十人を焼き尽くすだろう。』すると、天から火が下って来て、彼とその部下五十人を焼き尽くした。」**そして、エリヤは別の機会に、答えて言いました。「『わたしが神の人であるなら、天から火が下って来て、あなたとあなたの部下五十人を焼き尽くすだろう。』」それは、もう一人の五十人隊の長でした。「すると、天から神の火が下って来て、彼とその部下五十人を焼き尽くした。」(第2列王記1:10-12)

ですから、私たちは知っています。そして、第1列王記17章で、

**「ギリアデの住民であるティシュベ人のエリヤはアハブに言った。『私が仕えているイスラエルの神、主は生きておられる。私のことばによるのでなければ、ここ数年の間、露も降りず、雨も降らない。』」**  
(第1列王記17:1)

面白くないですか？神は、エリヤに権威を授けられ、「私のことばによるのでなければ、」と彼は言いました。そして、もちろん聖書には、ヤコブの手紙5章17節に書いています。

**「エリヤは、私たちと同じ人間でしたが、雨が降らないように熱心に祈ると、三年六か月の間、雨は地に降りませんでした。」**(ヤコブ5:17)

それは、よく知られた事だったので。皆さん、ヨハネの黙示録11章6節にはこうあります。

「この二人は、預言をしている期間、雨が降らないように天を閉じる権威を持っている。また、水を血に変える権威、」(黙示録11:6)

面白くないですか？次は出エジプト記7章のモーセの箇所に移りましょう。

「主はこう言われます。あなたは、次のことによって、わたしが主であることを知る、と。ご覧ください。私は手に持っている杖で、ナイル川の水を打ちます。すると、水は血に変わり、ナイル川の魚は死に、ナイル川は臭くなります。それで、エジプト人はナイル川の水を飲むのに耐えられなくなります。」主はモーセに言われた。『アロンに言え。「あなたの杖を取り、手をエジプトの水の上、その川、水路、池、全ての貯水池の上に伸ばしなさい。そうすれば、それらは血となり、エジプト全土で木の器や、石の器にも血があるようになる。」』モーセとアロンは主が命じられたとおりに行った。モーセはファラオとその家臣たちの目の前で杖を上げ、ナイル川の水を打った。すると、ナイル川の水はすべて血に変わった。ナイル川の魚は死に、ナイル川は臭くなり、エジプト人はナイル川の水を飲めなくなった。エジプト全土にわたって血があった。」(出エジプト7:17-21)

「主はモーセに言われた。ファラオの心は硬く、民を去らせることを拒んでいる。あなたは朝、ファラオのところへ行け。見よ、彼は水辺に出て来る。あなたはナイル川の岸に立って、彼を迎えよ。そして、蛇に変わったその杖を手に取り、彼に言え。『ヘブル人の神、主が私をあなたに遣わして言われました。わたしの民を去らせ、彼らが荒野でわたしに仕えるようにせよ、と。しかし、ご覧ください。あなたは今までお聞きになりませんでした。主はこう言われます。あなたは、次のことによって、わたしが主であることを知る、と。ご覧ください。私は手に持っている杖でナイル川の水を打ちます。すると、水は血に変わり、」  
(出エジプト7:14-17)

ですから、私たちは見ました。私たちは見たのです。エリヤが雨を降らせただけではなく、エリヤが天から火を降らせただけではなく、そして第1列王記18章でも、バアルとアシェラの預言者たちがいる時、エリヤが祈っていると、そこに天から火が降りました。第2列王記1章には、こうあります。モアブが・・・、ところで、ここはもう読みましたが、火が下った事について全て読みましたが、

「主はこう言われる。あなたが人を遣わし、エクロンの神、バアル・ゼブブに伺いを立てるのは、イスラエルに神がないためか。それゆえ、あなたは上ったその寝台から降りる事はない。」(第2列王記1:6)

私は、第2列王記1章1-14節は読みました。ただ、皆さんに理解して欲しかったのです。さて、次に進みましょう。旧約聖書と、ユダヤの伝統の両方において、モーセとエリヤが、将来、戻る事が期待されています。マラキ書4章5節にこうあります。

「見よ。わたしは、主の大いなる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。」  
(マラキ4:5)

申命記18章ではこうです。

「あなたの神、主はあなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のような一人の預言者をあなたのために起こされる。あなたがたは、その人に聞き従わなければならない。」(申命記18:15)

「私は彼らの同胞のうちから、彼らのためにあなたのような」、モーセのような、です。「一人の預言者を起こして、彼の口にわたしのことばを授ける。彼は、わたしが命じることすべてを、彼らに告げる。」  
(申命記18:18)

もちろん、これらの聖句は、イエスご自身についての預言です。しかし、皆さんに理解してほしいのは、ユダヤ人の考え方では、そして旧約聖書では、預言者が現れるというのは、ユダヤの人々によく知られた事な

のです。皆さんもご存じでしょう。ヨハネの福音書1章21節では、彼らはイエスに尋ねて、「それでは、あなたはエリヤですか。」彼は言いました。「違います。」失礼しました。彼らが尋ねたのは、ヨハネでした。

**「では、あの預言者ですか。」(ヨハネ1:21)**

「あの預言者ですか。」彼は「違います」と答えました。もちろん、ヨハネは自分が預言者だとは証言できませんでした。ヨハネはエリヤの霊によって来たのです。ヨハネの福音書6章14節では、

**「人々はイエスがなされたしるしを見て、『まことにこの方こそ、世に来られるはずの預言者だ』」  
(ヨハネ6:14)**

彼らは、メシアと、その本質を理解しておらず、これは預言者だと思ったのです。さて、彼らはエリヤであれモーセであれ、あるいは、先ほど言った様に、モーセのような預言者が来るとしていました。しかし、彼らはしばしば、イエスを「あの預言者」だと思ったのです。ヨハネの福音書7章40節はこうです。

**「このことばを聞いて、群衆の中には、『この方は、確かにあの預言者だ』という人たちがいた。別の人たちは、『この方はキリストだ』と言った。」(ヨハネ7:40-41)**

ですから、ある人は「来るべき、あの預言者だ」と言い、ある人は、「違う、この方はメシアだ」と言ったのです。マタイによる福音書11章14節はこうです。

**「あなたがたに受け入れる思いがあるなら、この人こそ来たるべきエリヤなのです。」(マタイ11:14)**

バプテスマのヨハネの事を指しています。ルカによる福音書1章17節。

**「彼はエリヤの霊と力で、主に先立って歩みます。」**ヨハネの事です。「父たちの心を子どもたちに向けさせ、不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主のために、整えられた民を用意します。」(ルカ1:17)

ですから、ユダヤの人々の心の中に、期待がある事が分かります。繰り返しますが、ユダヤの人々の思想の中では、モーセかエリヤが戻って来る、と。そして、モーセとエリヤは両方とも…、ここから三番目の要点に入りますが、両方とも、恐らく彼らは律法と預言を表しているのだと思いますが、彼らは、イエスの変容された時に一緒に現れました。これは、恐らくイエスの再臨の予告でしょう。マタイによる福音書17章3節にこうあります。

**「そして、見よ、モーセとエリヤが彼らの前に現れて、イエスと語り合っていた。」(マタイ17:3)**

そして四番目です。二人とも普通でない形で、地上を去りました。ご存じのように、エリヤは決して死にませんでした。彼は火の戦車で天に上って行きました。第2列王記2章11-12節。エリヤは自分の主人であるエリヤと歩いていました。そして、それが起こりました。

**「こうして、彼らがお進みながら話していると、火の戦車と火の馬が現れ、この二人の間を分け隔て、エリヤは竜巻に乗って天へ上って行った。エリヤはこれを見て、『わが父、わが父、イスラエルの戦車と騎兵たち』と叫び続けたが、エリヤはもう見えなかった。彼は自分の衣をつかみ、それを二つに引き裂いた。」(第2列王記2:11-12)**

エリヤは途方に暮れ、彼の教師は、彼を残していなくなったのです。エリヤは信じられない光景を見て、驚いたのです。文字どおり…。皆さん、聞きたくない人もいるかもしれませんが、これはエリヤの携拳なのです。申命記34章。モーセについて話しましょう。

「こうしてその場所で、主のしもべモーセは主の命によりモアブの地で死んだ。主は彼を、・・・葬られたが、」神がモーセを葬られたのです。「ベテ・ペオルの向かいにあるモアブの地の谷に今日に至るまで、その墓を知る者はいない。」(申命記34:5-6)

ところで、イスラム教では、その場所が分かっていると考えられており、ユダヤ砂漠にナビ・ムサという場所があって、そこで葬られたとされていますが、しかし誰も知らないのです。聖書では、誰も…。これだけではなく、ユダの手紙9節。ユダの手紙。ユダの手紙は1章しかありません。9節です。

「御使いのかしらミカエルは、モーセのからだについて悪魔と論じて言い争ったとき、ののしってさばきを宣言することはあえてせず、むしろ『主がおまえをとがめてくださるように』と言いました。」

(ユダの手紙9)

凄くないですか。悪魔はモーセが生きている間に彼を殺したがっただけではなく、モーセの死体をめぐって争ったのです。モーセの死体をめぐって。信じられません。ご存じのように、ヘブル人への手紙9章27節では、

「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、」 (ヘブル9:27)

ご存じですよ。皆さん、そして私たちは次の事を理解しています。私たちは、明らかに見て取れます。裁きがどのように行われるのかを。そして、もしかしたら、これらが、この“二人の証人”の全てを告げているかもしれません。超自然的な力と明確なメッセージを持った二人の人物である事が分かっています。ゼカリヤ書4章1-14節にはこうあります。

「そして再び尋ねた。『二本の金の管によって金の油を注ぎ出す、このオリーブの二本の枝は何ですか。』すると彼は私にこう言った。『あなたは、これらが何であるのかを知らないのか。』私は言った。『主よ、知りません。』彼は言った。『これらは、全地の主のそばに立つ、二人の油注がれた者だ。』」

(ゼカリヤ4:12-14)

ここはとても興味深いです。ゼカリヤは、もちろんゼルバベルの時代について話しています。そしてヨシュアです。イスラエルの指導者で、イスラエルの地に戻り、当時、大祭司でした。ここで、ともしび皿と木の間に明らかに繋がりがある事が分かります。そして、とても興味深いのが、描こうとしているものは、基本的に、一定して、自然に、自動的に油を注ぐオリーブの木からともしび皿への流れです。皆さん、これは象徴です。神は、救い、祝福を、人の力によってもたらすのではなく、聖霊の力によってもたらすという真理です。これが、ご存じのように、ゼカリヤが、こう書いた理由です。

「『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって』と万軍の主は言われる。」(ゼカリヤ4:6)

これは、全地の主のそばに立つ二本のオリーブの木と二つの燭台です。興味深いです。オリーブの木と燭台は、リバイバルの光を象徴しています。なぜならオリーブ油は、通常、ともしびに使われるからです。ここで、もう一カ所、読みたいと思います。これはゼカリヤ書だけではなく、ヨハネの黙示録1-5章に続きます。今は、天の神の御前に立つ二本のオリーブの木と二つの燭台について話しています。そして、いま見てきた様に良いでしょう。もしこの二つが、ゼカリヤが言った様にゼルバベルとヨシュアなら、私たちは、神がこの二人に力を与えるのを見ました。神は、彼らに、その油を与えました。神は、彼らに油注ぎをしました。何のために？それは、もちろん、何とかして心に訴える為に…。誰の心に？誰に？ここで検証していきます。さて、理解するよう努めましょう。彼らの目的を理解しようと努めました。しかし、なぜ彼らなのでしょう。普通に裁判を行うためには証人が必要です。そして私が言っているのは、まさに、これが二人である理由です。申命記17章6節にこうあります。

「二人の証人または三人の証人の証言によって、死刑に処さなければならない。一人の証言で死刑に処してはならない。」(申命記17:6)

つまり、神が言われるのは、基本的にこうです。もし、あなたが、わたしを受け入れず、もし、悔い改めないなら、明らかに、あなたは死刑に値する。しかし、ここでわたしは二人の証人を与える。彼らは証しのことばを言い、預言し、わたしからの力を持ち、わたしが油を注ぐ。そして、もし、あなたが彼らのことばを聞いたなら、あなたの審判は違ったものになる。申命記19章15節。

「いかなる<sup>とが</sup>咎でも、いかなる罪でも、すべて人が犯した<sup>ざいか</sup>罪過は、一人の証人によって立証されてはならない。二人の証人の証言、または三人の証人の証言によって、そのことは立証されなければならない。」  
(申命記19:15)

皆さん、伝道者の書4章9-12節。

「二人は一人よりもまさっている。二人の労苦には、良い報いがあるからだ。どちらかが倒れるときには、一人がその仲間を起こす。倒れても起こしてくれる者のいないひとりぼっちの人はかわいそうだ。また、ふたりがいっしょに寝ると暖かいが、ひとりでは、どうして暖かくなるう。」

もちろん、これはカップルの話で、これは男女の聖なる自然な結婚生活の話ですが、しかし、これはまた、二人でいる事の価値についても話しています。一緒にいる事の価値です。

「もしひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ撚りの糸は簡単には切れない。」  
(伝道者4:9-12)

先ほど言った様に、私たちが話しているのは、ある種の断ち切られる事のない機関、もちろん、もし神が真ん中におられるならです。マタイによる福音書18章16節。

「もし聞き入れないなら、ほかに一人か二人、連れて行きなさい。二人または三人の証人の証言によって、すべてのことが立証されるようにするためです。」(マタイ18:16)

ヨハネの福音書8章17節にも書かれています。「あなたがたの律法にも、」とイエスはパリサイ人に言います。「あなたは、わたしが自分自身について証しした、と言いました。違います。わたしとわたしの父がともに証しするからです。」

「あなたがたの律法にも、二人の人による証しは真実であると書かれています。」(ヨハネ8:17)

第2コリント人への手紙13章1節。

「私があなたがたのところに行くのは、これで三度目です。」パウロは言いました。私があなた方の所に行くのは、三度目です！「二人または三人の証人の証言によって、すべてのことは立証されなければなりません。」(第2コリント13:1)

もし、それで不十分なら、長老ならどうでしょう。彼に対する告発はどうでしょう。それが第二の…。聖書にはこうあります。第1テモテへの手紙5章19節です。

「長老に対する訴えは、二人か三人の証人がいなければ、受理してはいけません。」(第1テモテ5:19)

ヘブル人への手紙10章28節。



**「モーセの律法を拒否する者は、」モーセの律法の事です。「二人または三人の証人のことばに基づいて、あわれみを受けることなく死ぬこととなります。」(ヘブル10:28)**

それで皆さん、今、私たちは理解しました。神は二人の証人を遣わされます。彼らは証人です。なぜなら、彼らの発言、そして行いが審判で用いられるからです。やがて審判が行われるのです。人間には一度死ぬことと、死後にさばきを受けることが定まっているのです。神は人間が迷い出る事は望まれません。神は人間が死ぬ事を望まれません。神は人間が完全に失われる事を望まれないのです。それで、神は二人を遣わされます。彼らは力強く、油注がれ、聖い。それはどこでしょう。

ここから大事な要点に来ました。皆さん、それはエルサレムです。ただのエルサレムではありません。神殿が建つその場所です。ただ神殿がある場所ではありません。祭壇がある場所です。いけにえを<sup>まき</sup>献げる場所です。皆さん、現在はエルサレムには神殿はありません。これは現在ではあり得ません。将来の出来事であるはずで、ユダヤ人が神殿の建設を許され、いけにえの儀式が回復される時です。それが認められる為に、何が起こるのか私たちは正確に知っています。もちろん、あの7年間の平和条約です。どうして分かるのでしょうか。なぜならダニエル書に、こうあるからです。やがて現れる反キリスト、大いなる国の君が増し加えるのです。…皆さんは「堅い契約を結ぶ」と言いますが、一週の間、7年の事です。その中間で、彼はささげ物をやめさせます。逆に言えば、ささげ物があるはずで、神殿が存在するはずで、そして、ちょうど中間の時点で、彼は、ブン！ささげ物を止めさせます。なぜか？「おい、神へのささげ物を止める。」ご覧下さい。この全体の記述があります。エルサレムにいる人々の神殿は神の神殿だとあり、ささげ物の祭壇があると書かれています。反キリストの事は一言も書かれていません。そこで反キリストが拝まれるとは、一言も書かれていません。いけにえの儀式は、もう行われなくなるとは書かれていません。正反対です。神の目に正しいとユダヤ人が考える理想郷では、神殿が建っており、祭壇が活発で、二人の人物がイスラエル国家のエルサレムの都に、神によって、神から遣わされ、そして二人は彼らに言うのです。イエスの証しを。預言を。そして二人は言います。「あなたがそこで行っている事は間違っている。これではありません。悔い改めが必要です。」イザヤ書1章を見てください。私が信仰を持った時、最初に読んだ預言書がそれで、私はイザヤ書1章を読んだ時、胸が張り裂けました。神は最初の18節でイスラエルの民に語られます。

**「あなたがたは、わたしが求めてもいない宗教を造り出した。なぜ、あなたがたは、これらの全てのいけにえを持ってくるのか。なぜ、あなたがたは、これら全ての例祭、安息日、新月の祭りを祝うのか。わたしはそれを憎む。わたしの心はそれを憎む。わたしは、あなたがたが、これら全てを行うのに耐えられない。そして、わたしとともに働かず、悔い改めもしない。洗え。身をきよめよ。あなたがたの悪を取り除け。悪事を働くのをやめよ。あなたがたに、新しい心、新しい霊を受けて欲しい。さあ、来たれ。論じ合おう。さあ、見てみよう。たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなるかどうか。」**

分かりますか。神は、宗教はいらないとおっしゃっているのです。「わたしはこの神殿、祭壇はいらない。もし、あなたがたが救い主、救い、悔い改め、贖いが必要な事を理解していなければ。これは、わたしのものでも、わたしから出たものでもない。」想像できますか？ユダヤの人々が、二千年の後に、遂に神殿を建て、遂にささげ物を献げ、遂に神殿の丘で礼拝します。想像できますか？そこに二人の人物が現れ、これは間違いだということです。もちろん、ユダヤの人々は彼らを憎むでしょう。彼らはエルサレムにおり、神殿におり、ささげ物を見て…。そしてユダヤの人々は、三年半の激しい証しの後で理解するのです。皆さんは、理解する必要があります。

クリスチャンは、最初の三年半は地上に留まるべきだと信じている人たち。皆さん、この最初の三年半は非常に平和だなんて、一瞬たりとも考えないでください。人々は、この二人の証人の死を祝うのです。なぜなら、その三年半の間、人々に降りかかる苦難のために。この二人の証人のせいで。裁きはすでに始まっています。神はすでに疫病、その他のものを送り、水を血に変え、雨を降らなくし、この二人の証人に害を加えようとする人々は火で焼き尽くされます。皆さん、世界中の人々が祝うんです。この二人の証人の死を。つまり、人々にとって恐ろしいものなんです。彼らの証しを聞くのも恐ろしく、これらの事を体験するのも恐

ろしいのです。なのに皆さんは、最初の三年半は素晴らしくなると言われるのですか？この三年半の次に誰が来るか考えてみて下さい。千二百六十日の後、獣、反キリストが、ほとんど悪魔の生まれ変わりのような形で来るのです。彼は何をするのでしょうか？思い出して下さい。この時、彼が、それを止めさせるのです。いけにえとささげ物を止めさせるのと同じ人物です。これら全てを終わらせるのと同じ人物です。しかし、それは人々が悔い改める必要があるからではありません。彼は、神を拝むのを止めさせ、自分を神として拝ませたいからです。そして何よりも彼が避けたいのは、人々に、悔い改めて、イエスを拝み、イエスを通して神に立ち返れと説く二人の証人です。そこで彼は何をするのでしょうか。彼は二人の証人を殺すのです。そして、彼は二人の死体を引きずり出し、誰も彼らを葬りません。そして、世界中が三日半の間、喜び祝うのです。その時、教会は存在しません。教会は、この地上で、いかなる実態もありません。世界中が、このような有様なのです。皆さん、理解する必要があります。これら全ての事が起こる時、聖書は、この特定の出来事の中で、二つの時間枠を示しています。両方の期間とも、同じ三年半です。後半は、異邦人がエルサレムを占領する事について話し、その時、イスラエルはもはや、そこにはいません。イスラエルは砂漠に避難しています。12章の男の子を産んだ女です。その男の子とはメシアです。皆さん、千二百六十日の間、二人の預言者、二人の証人がそこにいます。しかし四十二ヶ月の間、後に異邦人がこの都を踏みにじります。しかし興味深くないですか。千二百六十日も四十二ヶ月も、それぞれ聖書的な三年半を表していて、二つの期間を合わせると7年間の大患難時代になります。私たちはすでに知っています。なぜなら、ほら、これはダニエルの預言とぴったり一致する長さです。9章で「七十週」について述べています。皆さんもご存じです。ダニエルは言いました。あるいは、御使いがダニエルに言いました。

#### 「あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。」（ダニエル9:24）

そして、最初に七週と六十二週があると言いました。その期間を過ぎるとメシアが来て、メシアは断たれます。メシアは殺されるのです。それから、ダニエルは最後の週、70番目の週について述べます。ここで、皆さんに思い出して頂きたいのが、あるいは、知らない人もいるかも知れませんが、1週間は、ダニエルの聖書的な預言では7年間を意味します。1年間は、ユダヤ歴では360日になります。私たちは太陽暦ではなく、太陰暦を用います。それで360日になります。ですから、千二百六十日は、正確に三年半になります。そして、四十二ヶ月も正確に三年半になります。そして四十二ヶ月は千二百六十日と同じで、それはつまり、この二つの期間が合わさって、7年間です。

そして皆さん、理解しておかなければいけません。ロバート・アンダーソン卿は、彼の自著、彼が1800年代の後半に執筆した「ザ・カミング・プリンス」（来たるべき王子）の中で計算しています。「エルサレムを再建せよ」との命令が出てから、ネヘミヤ記2章にあるアルタクセルクセス王による命令だけが、私たちが知っている通り、その命令で、皆さん、最初の六十九週が始まりました。六十九週。つまり、 $69 \text{ 週} \times 7 \text{ 年} \times 360 \text{ 日} = 17 \text{ 万} 3 \text{ 千} 880 \text{ 日}$ 。「行ってエルサレムを再建せよ」との命令を、ネヘミヤが受けた日から、イエスがらばに乗って、しゅろの主日にエルサレムに入城したその日まで。それはAD32年4月6日、過越の一週間前で、まさにその日です。分かりますか？神が日や時間を示されていない時は、計算しようとしたり、推測してもいけません。知らなくていいのです。しかし、神が私たちに特定の日、時間、月、年をお知らせになりたい時は、神は日数まできっちり私たちに示されます。皆さんがご存じのように。もし、皆さんが大患難時代の中に携挙が起こると考えるなら、それは、携挙が起こる日が正確に分かる、という事になります。なぜなら、平和条約が結ばれてから千二百六十日後を計算すればいいのですから。もし、皆さんが大患難時代の直後に携挙が起こると考えるなら、その日が正確に分かります。なぜなら、ちょうど7年間です。携挙がいつ起こるか人間に分からない唯一の時期、方法は、その日その時、あるいは年が分からないのは、大患難の前だけです。

皆さん、繰り返しますが、私たちは期間を理解する必要があります。それを理解しておく事は重要なのです。なぜなら、その時、私たちはすでに取り除かれ、イスラエルは平和条約に署名し、イスラエルに神殿が建てられ、祭壇が設けられ、ユダヤの人々は幸福感に包まれ、いよいよだと信じ、神が共におられると喜び、そして神がおっしゃるのです。「いや、それではない。」と。「これはわたしの神殿ではない。これはわた

しものではない。あなたがたは宗教の中で死んでいる。まさに、わたしがイザヤを遣わし、1章を書かせた時と同じである。あなたがたには悔い改めが必要である。」これは驚くべきことです。驚くべき事です。ですから、見ての通り、二人の証人がイスラエルに来て、世界中が彼らを感じます。しかし、彼らはエルサレムに来るのです。彼らはイスラエルに語りかけます。彼らは来て、神殿と祭壇を見ます。彼らはそれを測ります。わお。凄くないですか？神は、イスラエルを諦めておられないのです。私たちはそこにはいません。私はいつも、大患難時代はイスラエルの救いのためだと言っています。神は、神が異邦人に二千年の時間を与えた後、私たちは取り除かれ、神は再びイスラエルと向き合われるのです。そして、確かに神が教会、またはイスラエルを取り扱われる時、それは全世界に影響します。そして皆さん、この事を知って頂きたいのです。皆さんに理解して欲しいのです。神はイスラエルを取り扱われ、世界中が理解し、世界中が、その二人の死を祝います。そして、皆さんは知る必要があります。知る必要があります。この章全体の中で一番大事な事は、彼らが誰かという事ではありません。彼らの名前を特定する事ではありません。大事なのは、彼らが携えて来るメッセージです。人々は、神の仕事が裁き、殺し、呪い、罰を加える事だと思っています。それは事実とかけ離れています。つまり、エゼキエル書18章20-24節を読みますが、

**「正しい人の義はその人の上にある、悪しき者の悪はその者の上にある。しかし、悪しき者でも、自分が犯したすべての罪から立ち返り、わたしのすべての掟を守り、公正と義を行うなら、その人は必ず生きる。」**  
(エゼキエル18:20-21)

神は「完璧であれ」とは言われません。神は「悔い改める者であれ」と言われます。自分の罪深い性質を認める必要があります。悔い改める必要があります。神の道に立ち返る必要があります。そうすれば、あなたは死なない。確かに死なないのです。これは、エデンの園で、神が二人に言われた事を思い出させます。

**「その木から食べる時、あなたは必ず死ぬ。」** (創世記2:17)

神は私たちにおっしゃっているのです。「わたしは、あなたがたに死んでほしくない。あなたがたがこれを行えば、必ず死にます。しかし、あなたがたがあれを行えば、必ず死なない。」皆さんは、他に何を求めているのでしょうか。天と地の造り主である神が、あなたがたにおっしゃっているのです。「Aは良い、Bは良くない。Aはあなた方にいのちを与え、Bは死を与える。」なのに、あなたがたはBを選び、そして、あなたがたは不平を言うのです。神が何と言われているか、見てください。その人が犯したどんな罪も、こうあります。見よ。それは何も…。つまり…、「彼が行ったすべての全ての背きは覚えられることがなく、」もし立ち返るなら、もし悔い改めるなら。

**「彼が行った正しいことのゆえに、彼は生きる。わたしは悪しき者の死を喜ぶだろうか」**  
(エゼキエル18:22-23)

神は、言われます。「わたしが誰かの死を喜ぶとでも？わたしが悪しき者の死を望むと思っているのか？」

**「一神である主のことは一。彼がその生き方から立ち返って生きることを喜ばないだろうか。しかし、正しい人が正しい行いから離れ、不正を行い、悪しき者がするようなあらゆる忌み嫌うべき事をするなら、彼は生きるだろうか。」** (エゼキエル18:23-24)

罪は死をもたらすのです。神が死をもたらすのではなく、罪が死をもたらすのです。そして、神は罪が死をもたらす事をご存じなので、罪から離れるように言われるのです。

**「彼が行った、どの正しいことも覚えられず、彼が犯した不信と陥った罪のゆえに、彼は死ななければならぬ。」** (エゼキエル18:24)

もし、あなたが死ぬなら、それは、あなたが犯した罪のせいです。神のせいではありません。神の責任にし

てはいけません。神は忠実で、愛で、真実なお方です。そのため、常に証人がいるのです。もし、それが大患難時代前半の二人の証人でなければ、後半には14万4千人が現れます。常に誰かがいて、義のメッセージをもたらします。悔い改め、赦し、愛、あわれみ、いのち。しかし、もし、あなたが背を向ける事を選ぶなら、シアトルの「自治区」にいた、あの伝道者を見て下さい。彼はそこに来て、いのちを選びなさい、と言いました。私は今日、ある動画を見ましたが、黒人の警官が抗議している女性に近づき、そして言いました。「ご婦人、問題は人種差別ではない。問題は罪であって、それが問題なんだ。」彼は、こんな風に「見なさい。私は警官で、黒人だ。」問題は罪です。ジョージ・フロイド氏を殺した人、彼らが彼を殺したのは、罪のためです。彼の肌の色の問題ではないのです。白人の方が黒人よりも多く警官に殺されています。勘弁してください！これは罪です。これは殺人です。これは関係ありません…。ご覧ください。どちらを向こうと関係ありません。人種差別は罪です。アメリカには組織的な人種差別はありません。

アメリカには罪があります。罪はイスラエルにもあります。エルサレムにも罪があるのです。どこに？神殿の真ん中に！現在のあの罪人たちを神が愛されたのと同じ様に、神が、彼らに遣わされた伝道者に、彼らが何をしたか見て下さい。神はエルサレムの人々を愛しておられ、私たちが取り除かれた後で、神は彼らに二人の証人を遣わされます。それが何と悲しい事でしょうか。唯一、エルサレムの人々が二人の証人に耳を傾けるのは、彼らがよみがえった後です。よみがえりの後、地震が起こり、七千人が死にます。唯一、その時になって人々が真剣に受け止め、天の神に栄光を帰します。そう聖書に書かれています。これは、ユダヤ人です。それはイスラエルで、エルサレムでの事です。世界の他の地域は、聖書にはヨハネの黙示録16章にこうあります。鉢の中身が注がれる度に、太陽が人々を炎熱で焼き、人々は、神にはそれを止める事が出来ると分かっているながら、彼らは悔い改めて神に栄光を帰することはなく、神の御名を冒瀆するのです。有難い事に、イスラエルの三分の一は、ユダヤの人々は避難します。この二人の人物が真実を語ったと一度理解すると、そして、実際に獣が神殿で神と自分を置き換え、まるで自分が神である様に振る舞うと、ユダヤの人々は、神が備えられる場所に避難します。どのくらいの期間？12章を読みましょう。千二百六十日の間です。イスラエルに関しては、期間は日で表されます。そして、異邦人がエルサレムを踏みにじる事については、月で表されます。四十二ヶ月です。

わお。皆さん、メッセージは明確です。神は皆さんが悔い改め、赦され、いのちを得、豊かに生きる事をお望みです。今日が、あなたの救いの日です。私から、皆さんへ挑戦があります。皆さんはイエスの証人ですか？言い換えると、聖書にはこうあります。イザヤ書43章です。イザヤ書43章10節では、イスラエルは神の証人だと言われ、そして使徒の働き1章8節では、教会は、弟子たちに言われます。「地の果てにまで、わたしの証人となります。」しかし教会がいなくなると、ここには証人がいなくなります。そしてイスラエルは盲目にされ、イスラエルは神殿が解決策だと考えます。彼らは、あかし出来ません。ですから、神は証人を遣わされるのです。そして、イスラエルがついに目覚め、砂漠に避難すると、神は14万4千人を遣わされるのです。イスラエルの各部族から、イスラエルに伝道するために。もちろん、世界中のその他の地域もそれを聞きます。神は、ご自分の民を見捨てておられません。神は、彼らの悔い改めを望んでおられます。そしてイスラエルがその土地に戻る時、イスラエルは、イエスが私たちと共に降りて来るのを見るのです。ゼカリヤ書14章、ゼカリヤ書12章は告げています。イスラエルは自分たちが突き刺した者を見て、嘆き、泣き、悔い改めます。ゼカリヤ書14章では、最後の戦いが描かれています。大患難時代を終わらせる戦いで、皆さんがアルマゲドンと呼ぶ戦いです。でも実際には、戦いの場所はエルサレムです。

**「その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。私の神、主が来られる。すべての聖徒たちも主とともに来る。」（ゼカリヤ14:4-5）**

それが私たち全員です。そして、その時、イスラエルの全家が救われます。これが、ローマ人への手紙11章にあるように、異邦人の満ちる時なのです。異邦人が聖なる都を踏みにじる四十二ヶ月間が終わる時、思い出してください。イスラエルはすでに砂漠に行っています。エルサレムでユダヤの人々が神を拝んでいると思っている最初の三年半は、二人の証人が、それは正しい道ではないと伝えます。そして、ついに彼らが自分の間違いを理解し、彼らは砂漠に避難して、そこで伝道を受けます。そのために…。1960年代に、クリ

スチャンの団体がイスラエルに来て、イスラエルからバスに乗ってヨルダン川を渡りました。1966年、6日戦争の前の事でした。そして、彼らは、はるばるヨルダンのペトラまで行きました。彼らは、最後の三年半にユダヤ人がそこで隠れると信じていました。そして、彼らは、そこにヘブライ語の旧約、新約聖書を隠したのです。ペトラにある全ての洞窟には、今日、ヘブライ語の旧約、新約聖書があります。なぜなら、反キリストは、あらゆる聖書を、あらゆる場所で禁止すると私は信じています。では、どうやって知るのでしょう？二人の証人がいます。もう皆さんお分かりでしょう。この秘密が。ペトラには、何千冊ものヘブライ語の聖書が隠されているのです。何という事でしょう。あまりにも素晴らしいです。ところで、私はこの事を数日前まで知りませんでした。彼らと会った私たちの集会の一人の老人が、私に話してくれたのです。さて皆さん。今日が救いの日です。あなたは今日、イエスの証人ですか？そうでなければ、将来、あの証人たちが必要になるでしょう。もし、あなたが今日信じないなら、一度、携挙が起こった後で、あなたが信じるとは思えません。聖書の第一テサロニケ人への手紙、いえ、第二の2章にこうあります。

**「自分を救う真理を愛をもって受け入れなかったからです。それで神は惑わす力を送られ、」**  
(第二テサロニケ2:10-11)

イエスを拒否しないで下さい。

**「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。」** (ヨハネ3:16)

神は人々に永遠のいのちを生きて欲しいのです。神は、いのちをお与えになりたいのです。イエスはいのちであり、真理であり、道なのです。いのちなのです。神は人が命を選ぶことをお望みです。神はモーセに言われました。

**「私は、いのちと死、祝福とのろいをあなたの前に置く。」** 神は言われました。「いのちを選びなさい。」  
(申命記30:19)

これは選択です。そしてあなたは今日、その選択が出来るのです。

お父様、私たちは祈ります。今日、私たちは驚くべき情報を学びました。それはエルサレムでの将来現れる二人の証人についての事で、彼らはイスラエルの民の所に来て、イスラエルの民がいかに間違っているかを伝えます。彼らは宗教を演じ、本当に悔い改める事をせず、そして世界中がそれに悩まされます。お父様、私たちは祈ります。人々が理解するように。耳のある人、目のある人が聖霊のことばを見聞きして、理解することが出来ますように。お父様、私は祈ります。非常に多くの人の中で良い働きを始められたあなたは、それを完成させてくださいます。私は祈ります。このメッセージを聞く人は、誰でも心の奥まで揺さぶられ、今日が心を決める時だと理解しますように。お父様、私たちは理解します。あなたのことばから垣間見<sup>かいま</sup>て、ヨハネの黙示録の中で、この世界での生活がどんなに酷いかを、私たちは理解します。人々は死ぬことを願いますが、死は彼らから逃げていくのです。人々は死を探し求めるのです。お父様、ここであなたは私たちにいのちを下さいました。あなたは、私たちが、この御怒りに合わないよう定めておられ、ここから取り出してください。なぜなら、あなたは約束なさいました。あなたがイエスを遣わし、私たちを彼の下に受け入れると。イエスのおられる所に私たちもいるためです。あなたの教会への約束に感謝し、祝福します。私たちはまた祈ります。イスラエルがその目を開くように。今、出来るだけ多くの人が、彼らに降りかかるとうとする激しい迫害を避けられるように。そこでは三分の二が死に、残りの三分の一が、ゼカリヤ書13章にあるように、火の中に入れられ、練られます。お父様、あなたのことばとメッセージに感謝します。私たちは、これらの事を、尊いイエス様の御名によって祈ります  
アーメン。アーメン。

ありがとうございました。神の祝福がありますように。  
このメッセージを、できるだけ多くの人に分かち合ってください。  
神の祝福がありますように。  
ガリラヤからシャローム。さようなら。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.07.29 (Wed)